

東北ハイテク研究会

ニュースレター(No.31 2019.1)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第31号をお届けします。

第31号では、東北ハイテク研と福島県農業総合センターが共催で実施しました「イチゴの利用拡大セミナー ―福島県における今後の展望―」(30/12/5開催 福島県農業総合センター：郡山市、参加者100名)について報告します。

(本セミナーは、農林水産省が実施する「知」の集積による産学連携支援事業により行われました。)

セミナー開催の目的

近年、全国的にオリジナル品種によるブランド化の動きがみられ、新しい品種が発表されるたびに話題を集めて消費者の品種への関心も高まる傾向にあります。

福島県でもイチゴに対する関心は高いものの、イチゴの主力品種は他県育成の品種をもちいて、冬春期間に出荷する促成栽培が主体であり、近年、作付面積は少しずつ減少する傾向にあります。

こうした現状をふまえて、今後の福島県のイチゴの生産と利用の拡大に必要な対応を行うために、イチゴの関係者が集まり品種やマーケティングなどに関するセミナーを開催しました。

講演・質疑討議の内容

…… 講演内容は、以下のとおりです。

(1) イチゴの品種開発の現状

農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 主任研究員 本城 正憲 氏

(2) マーケティングの視点からみた今後のイチゴの消費動向

東京農業大学 国際食料情報学部 准教授 半杭 真一 氏

(3) 福島県のオリジナル品種育成の方向

福島県農業総合センター 作物園芸部 研究員 秋葉 未歩 氏

講演後は、活発な質疑があり、新しく育成された品種、特に桃に似た香りをもつ品種の福島県での適性や福島のイチゴを売り出すに当たっての注意すべことについての質問などが出されました。

セミナー終了後には福島県農業総合センターのイチゴ品種育成現地試験に係る検討会が開催され、東北ハイテク研からの3名も同席しました。福島県で育成中の系統の今後の可能性と取り扱いについて意見交換が行われました。

<講演風景>



<質疑応答>

